

平成 23 年度 看護学類 4 年次 シラバス もくじ

1 学期

地域看護実習	1
成人看護学実習	2
高齢者看護学実習	3
助産方法論	4
ケア・コロキウム実習Ⅱ	5

2 学期

助産方法論	6
助産管理学	7
助産実習	8
総合実習 地域	9
総合実習 成人	10
総合実習 精神	11
総合実習 高齢者	12
総合実習 母性	13
総合実習 小児	14
総合実習 応用	15
研究方法セミナー	16

3 学期

外来看護プライマリーヘルスケア	17
医療の進歩と看護	18
研究方法セミナー	19
ケア・コロキウム (チームワーク演習)	20
看護管理方法論	21
看護政策論	22

科目番号	科目名		英語名		
HC31 003 Q13 1003	地域看護学実習		Community health nursing practicum		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	2単位	1学期	集中		
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
坂田由美子（4B棟510・8437） 田宮菜奈子（総合研究棟D420・8324） 吉岡 洋治（共同利用棟B111・3425） 柏木 聖代（総合研究棟D719・3405）					
学習目標					
<p>1. 市町村における保健・医療・福祉システムの現状を学び、保健所との連携と協働および市町村保健師の役割と活動内容を理解する。</p> <p>①実習地域の保健・医療・福祉システムの現状を述べることができる。 ②保健所との連携と協働を述べることができる。 ③保健・医療・福祉システムの中で、市町村保健師の役割と活動内容を関連づけられる。</p> <p>2. 市町村における健康情報を収集し、実習地域の健康課題に対する対処方法やその過程を理解する。</p> <p>①各種事業、地区視診、住民との接触などから地域の健康情報を収集できる。 ②収集した健康情報から健康課題を考察できる。 ③各種事業の意義や法的根拠を述べることができる。</p> <p>3. 直接的支援を体験学習する。</p> <p>①各種事業や諸活動を体験し、地域で行われている看護支援について理解を深める。 ②支援したことを自己評価する。</p> <p>4. 自治体に所属する保健師としての態度を身につける。</p> <p>①地域で生活する人々の多様な価値観、健康観、人生観を尊重して対応ができる。 ②地域住民や多職種の意見を聞き、それに対して自分の考えを表現できる。</p>					
単位取得要件	事前学習として実習市町村のコミュニティ・アセスメントを行う				
使用教科書・教材	国民衛生の動向他				
成績評価	出席・実習態度・実習レポート・カンファレンスおよび発表への参加等による総合評価				
備考：実習目標達成にむけて、積極的、主体的に実習に取り組みましょう。これまでの学習を実践に活かすために事前学習、事後の振り返りは必須です。健康に留意し、計画的に実習に臨んでください。					

科目番号 HC32 033 Q13 2033	科目名 成人看護学実習			英語名 Practice of Adult Nursing	
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	2単位	1学期	集中		
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー） 柴山大賀（看・医 4B210 3433）・水野道代（看・医 4B505 8247）・日高紀久江（看・医 4B408 7997）・佐藤正美（看・医共同利用棟 B109 8494） オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること。					
学習目標 成人期にある患者を総合的に理解し、看護上の問題解決と援助のための看護過程を展開し、実践する能力を習得する。この実習では主に慢性期、回復期または終末期にある成人を対象とする。目的は、 1. 臨床現場において、成人各期にある対象を多面的・統合的に理解し、個々のニーズに対応した看護過程を展開する基礎能力を習得する、2. 対象の疾病の特徴と提供されている治療や看護を理解し、科学的根拠にもとづいたケア実践能力を習得する、3. 臨床で学ぶことにより、自己の看護観を深め、専門職としての自覚を強める、ことである。					
日程	担当教員		授業概要		
1週目 月曜	上記の各教員		オリエンテーション、受け持ち実習（情報収集）		
1週目 火～木曜	上記の各教員		受け持ち実習（看護問題の明確化）		
1週目 金曜	上記の各教員		受け持ち実習（看護計画の立案）		
2週目 月～水曜	上記の各教員		受け持ち実習（看護計画の実施と評価）		
2週目 木曜	上記の各教員		院内最終カンファレンス		
2週目 金曜	上記の各教員		院内事例発表会		
単位取得要件	実際に患者を1名以上受け持ち、看護過程を展開し、事例として発表できる。				
使用教科書・教材	別途、実習要項を配布する。				
成績評価	出席状況・実習実施状況・記録・レポート・カンファレンス参加状況等を総合して評価する。				
備考：					

科目番号	科目名		英語名		
HC34 033 Q13 4033	高齢者看護学実習		Gerontological nursing care practicum		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	2単位	1学期	集中		
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
非常勤 橋爪祐美（4B棟411研究室 ・ 3986 事前に連絡必要） 松田ひとみ（D棟721研究室 ・ 3442 事前に連絡必要）					
学習目標					
療養生活を維持する高齢者とその家族を対象として、加齢に伴う心身機能の変化と社会的な影響を理解し、人権の尊重を基盤にヘルスプロモーションやQOLの向上を意図した看護の役割と活動の実際を学ぶ。					
担当教員	授業概要				
非常勤 橋爪祐美 松田ひとみ	<p>① ライフレビューや参加観察法を通して高齢者の人生歴や生活像を把握し、これらの技法の効果を検証する</p> <p>② 医療や福祉サービスを受ける権利の主体として高齢者を位置づけ、その擁護者（アドボケート）として自己決定を支援する看護の役割を考える</p> <p>③ 加齢に伴う心身機能の変化や社会的役割への影響を分析し、看護上のニーズを判断する</p> <p>④ 一日の生活リズムと生活行動からサーカディアンリズムを分析し、ヘルスプロモーションのための看護を計画する</p> <p>⑤ 高齢者と共に看護計画を検討し、高齢者一看護師間の共同意思決定を成立させる</p> <p>⑥ 高齢者の意思を尊重して看護ケアを実施する</p> <p>⑦ 高齢者の安全性を確保するために、常に指導者の助言を受けて参加を依頼する</p> <p>⑧ 看護の評価について、データの妥当性、科学的な根拠に基づいた分析、計画の実行性および高齢者満足感から総合的に判断する</p> <p>⑨ 高齢者の暮らしの場と家族関係に対する実態を捉え、QOLへの影響を検討する</p> <p>⑩ ソーシャルサポートチームの機能と役割を知り、医療と福祉の連携について理解する</p> <p>⑪ 専門的看護実践を学ぶ学習者として臨地実習体験の意味を整理し、今後の課題を明らかにする</p> <p>方法： 実習前に既得の学習の習得状態について評価を受ける</p> <p>① オリエンテーションを受ける</p> <p>② 高齢者を受け持ち、看護過程を展開する</p> <p>③ 所定の実習記録用紙を随時提出し、指導を受ける</p> <p>④ 高齢者の安全性を確保するために、常に指導者と同行する</p> <p>⑤ カンファレンスに参加し、実習体験を報告する</p> <p>⑥ 高齢者と指導者、およびグループ内の学生から評価を受ける</p> <p>⑦ 実習を総括した記録を教官に提出する</p> <p>*具体的な実習手順等は、実習開始前に別紙資料を配布する。</p>				
単位取得要件	履修要覧にもとづく。				
使用教科書・教材	適宜紹介する				
成績評価	目標の到達度に従い、出席状況、実習行動、データの妥当性、科学的な根拠に基づく分析、計画の実行性、高齢者の満足感評価、学生間評価、自己評価、実習体験の意味、記録から総合的に評価する。				
備考：高齢者看護方法、および高齢者看護関連科目の復習をしておくこと。					

科目番号	科目名		英語名		
HC35 142	助産方法論		Intervention of Midwifery		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	2単位	1・2学期	集中		助産実習室
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
村井文江（4B棟507 fumie_m@md.tsukuba.ac.jp ） 小泉仁子（4B棟503） 川野亜津子（4B棟209） 江守陽子（共同利用棟B110）					
学習目標					
助産ケアに必要な方法論を修得できる。 1) 妊娠期の健康診査・保健指導および産後1ヶ月健診の実際が理解できる 2) 分娩第一期から分娩終了までの分娩各期の助産ケアが理解できる 3) 出生直後の新生児のケアが理解できる 4) 産褥母子訪問の必要性が理解できる					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
第1回集中 分娩期のケア技術（1） 4月13日（水）、14日（木）、15日（金） 2～5限 助産過程の基礎：分娩介助の意義・原理・基本、助産過程の展開について理解する <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠期の助産診断 ・ 分娩期の助産診断 基礎助産技術演習：内診、分娩の準備（清潔操作）、分娩介助法、出生直後のケア 付属物の観察と計測 評価表による自己評価					
第2回集中 分娩期のケア技術（2） 6月24日（金）、27日（月）、28日（火）、29日（水） 2～5限 助産過程の応用：事例展開による助産診断・ケアまでの思考過程 <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準助産計画のブラッシュアップ ・ 異常の可能性の診断、対応 ・ 産褥期（1ヶ月健診・産褥母子訪問）および新生児期の助産診断 基礎助産技術演習：ロールプレイによる分娩介助法の展開 出生直後の新生児のケア 中間評価（7月1日） 継続ケースの分娩見学					
第3回集中 分娩期のケア技術（3） 2～5限 8月22日（月）、23日（火）、24日（水） 助産過程の展開：継続ケースによる記録の仕方、助産診断と分娩予測 基礎助産技術演習：分娩室入室から分娩進行にあった基本介助 母子の早期接触支援、帰室の判断 実技試験（8月29日）					
単位取得要件	授業への出席と技術試験およびレポートにおける合格水準以上の成績				
使用教科書・教材	別途紹介します				
成績評価	技術試験，レポート				
備考：助産コース選択者に限る、意欲的に学修すること					

科目番号	科目名			英語名	
HC38 043 Q13 8043	ケア・コロキウム実習Ⅱ (高齢者看護学)			Care colloquium practicum II (Gerontological nursing)	
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	1単位	1学期	集中		4C棟 看護学実習室2等
担当教員(研究室・連絡先・オフィスアワー)					
橋爪祐美(4B棟411、3986、事前に連絡必要) 松田ひとみ(総合研究棟D721、3442、事前に連絡必要)					
学習目標					
高齢者の健康生活と幸福を意図したケアを実践するために、看護職および他の専門職の活動を学ぶ体験を通してチーム医療における看護の意義と役割を理解する。					
日程	担当教員	授業概要			
	橋爪祐美 松田ひとみ	<p>①チーム医療を構成する医療職・福祉職と看護職の法的背景の異同を理解することができる。</p> <p>②介護・療養を要する高齢者や認知症高齢者が利用できる施設の法的根拠、対象者の利用(入居)基準・職員の人員基準を理解することができる。</p> <p>③医療職・福祉職がともに高齢者の健康生活と幸福の支援に取り組む実態を捉えることができる。</p> <p>④医療や福祉サービスを受ける権利の主体である高齢者の擁護者(アドボケイト)として、チーム医療における看護の役割について学ぶことができる。</p> <p>⑤学生間の連携を図り、指導者の助言をもとに積極的にインビュー等に参加することができる。</p> <p>⑥チーム医療における看護の役割について、他の専門職の活動の実際の見学、インタビュー、法的背景の異同から総合的に検討することができる。</p> <p>⑦専門的看護実践を学ぶ学修者としてチーム医療の円滑な運営を促進・阻害する要因について整理し、今後のチーム医療における看護の課題を明らかにすることができる。</p> <p>方 法： 実習前に既得の学習の習得状態について評価を受ける</p> <p>①オリエンテーションを受ける。</p> <p>②医療職・福祉職からの説明、現場の見学、文献、インタビューを通して学ぶ。</p> <p>③指導者とチームメンバーとのディスカッションを通して学ぶ。</p> <p>④シンポジウム形式で発表し、学びを共有する。</p> <p>⑤実習記録、実習を通して学んだことをレポートにまとめ、提出する。</p> <p>*具体的な実習手順等は、実習開始時に別紙資料を配布する。</p>			
単位取得要件	履修要覧にもとづく。				
使用教科書・教材	適宜紹介する				
成績評価	目標の到達度と出席状況、実習行動、実習記録、レポートにより総合的に評価する。				
備考：高齢者看護方法、および高齢者看護関連科目の復習をしておくこと。					

科目番号 HC35 151 Q13 5151	科目名 助産管理学		英語名 Administration of maternity nursing services		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	1単位	2学期		集中	
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー） 江守 陽子（共同利用棟B110・内線 3476） 村井 文江（看護学類棟 507・fumie_m@md.tsukuba.ac.jp） 小泉 仁子（看護学類棟 503・内線 8447） 川野亜津子（看護学類棟 210・内線 8431）					
学習目標 母子保健サービスの領域における専門職者に求められる管理能力について学習する。 助産業務および妊産婦・家族ケアに対する管理者としての基本的な知識を学習する。					
	日程	担当教員	授業概要		
1	4月	江守 陽子	助産管理の基本 分娩施設の運営 ①助産の質の保証②ひと、体制、基準と手順③評価、医療費		
2		〃	助産業務と関連法規 医療保険制度、出産手当金		
3		〃	社会保障制度 福祉制度（母子保健法、児童福祉法）		
4		〃	助産所運営の法的規制 開設のための条件（法律、規則、基準、職能団体）		
5	10月末	江守、村井、小泉 川野	実地演習		
6					
7					
8					
9					
10					
単位取得要件	助産師コース選択学生に限る。				
使用教科書・教材	実務衛生行政六法（新日本法規） 助産師業務要覧（日本看護協会出版会）				
成績評価	学習態度、課題レポート				
備考： 助産管理の実際を学習する目的のため、施設での実地演習を予定しています。 助産師コース選択者は必修科目（助産師国家試験受験資格に必要）です。					

科目番号	科目名		英語名		
HC35 163	助産実習		Midwifery and maternity care practicum		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	5単位	2学期	集中		
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
江守 陽子（共同利用棟 B110・内線 3476） 村井 文江（4B 棟 507・fumie_m@md.tsukuba.ac.jp・内線 3439） 小泉 仁子（4B 棟 503・内線 8447） 川野 亜津子（4B 棟 209・内線 8431）					
学習目標					
これまでに学習した母性看護学・助産学および関連領域の看護学の理論、知識・技術を用い、助産の実験を体験することによって、助産師に必要な基本的能力を修得する。					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
<p>I 助産学実習の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個別的な助産過程を展開する。 2. 妊産褥婦および新生児のケアに必要な助産技術を修得する。 3. 助産過程をとおして家族発達を促す方法を学ぶ。 4. 助産過程をとおして助産師の役割・機能と責務を学ぶ。 5. 自分自身の助産観を持つ。 <p>II 実習場所：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筑波大学附属病院 総合母子周産期センターおよび産科外来、NICU/GCU（つくば市天久保 2-1-1） ・茨城西南医療センター病院 産婦人科病棟（猿島郡堺町 2190） ・総合病院国保旭中央病院 産科病棟、NICU（千葉県旭市イの 1326） ・千葉西総合病院 産科病棟（千葉県松戸市金ヶ作 107-1） ・その他 <p>詳細は「助産実習要項」および実習前のガイダンスにおいて説明する。</p>					
単位取得要件	授業への出席と成績評価における合格水準以上の成績				
使用教科書・教材	助産学講座全 10 巻（医学書院）他				
成績評価	実習態度、記録、等を総合評価する				
備考：					
<ol style="list-style-type: none"> ①履修は助産コース選択者に限る。 ②実習に際しては、これまで学んだ知識・技術を整理し、見直したうえで臨むこと。 ③母と子の 2 つの命を自らの手に委ねられているという自覚と生命誕生に対する畏敬の念をもって臨んでほしい。 ④長期にわたる実習であるため、学生自身の健康管理には十分留意すること。 ⑤夜間実習を含む。 					

科目番号	科目名		英語名		
HC37 113 Q13 7113	総合実習・地域看護学分野		Field of community health nursing		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	3単位	2学期	集中		
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
坂田由美子（4B棟510・8437） 高田ゆり子（4B棟509・8372） 田宮菜奈子（総合研究棟D420・8324） 吉岡 洋治（共同利用棟B111・3425）					
学習目標					
1年から4年までに修得した看護実践能力の評価を踏まえ、保健・医療・福祉の包括的な視点から看護の総合的な実践能力を高めるため、学生自らが実習を企画し実施し評価できることを目的とする。あわせて将来の自らの看護の発展と方向性を探求することを目的とする。					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
<p>1. 学生として1～4年次までの実習では経験できなかったこと、あるいは経験を深めてみたいことを課題として、地域看護学の分野において実習できる内容であることを前提とする。学生が3週間の実習期間で目標が達成できる課題であれば、課題の分野等は問わないので、課題に合わせて目標を設定する。</p> <p>2. 地域看護学の分野として、市町村保健センター、学校、訪問看護ステーション等で実習する。上記以外の施設では、地域看護学分野の実習は行わない。</p> <p>3. 課題により担当教員を決定し、実習目標、実習計画、実習評価等について、担当教員の指導を受ける。実習施設の決定も担当教員の指導のもとに行う。</p>					
単位取得要件					
使用教科書・教材					
成績評価	実習意欲・実習態度・レポート等による総合評価				
備考：主体的に学ぶことを望みます。					

科目番号	科目名		英語名		
HC37 123	総合実習 (成人看護学分野)		Field of Adult Nursing		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	3単位	2学期	集中		実習施設等
担当教員 (研究室・連絡先・オフィスアワー)					
日高紀久江 (看・医 4B408 7997 kikueh@md.tsukuba.ac.jp)					
水野 道代 (看・医 4B505 8247)					
佐藤 正美 (看・医 共同利用棟B109 8494)					
柴山 大賀 (看・医 4B210 3433)					
()					
オフィスアワー：来室は随時、受け付けるが事前に連絡すること					
学習目標					
1年から4年までに修得した看護実践能力の評価を踏まえ、保健・医療・福祉の包括的な視点から看護の総合的な実践能力を高めるため、学生自らが実習を企画、実施し評価できることを目的とする。あわせて将来の自らの看護の発展と方向性を探求することを目的とする。					
授業内容 (概要、回数、担当教員等)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生が各自で実習テーマを設定し、各自の実習目標にそった2週間の実習計画を立案する。 2. 担当教員の指導のもとで、実習目標実習内容に合った実習場所を決め、実習計画書を完成させる。 3. 各実習施設で実習計画にそって、臨床指導者のアドバイスを得ながら看護過程を展開し、実習を遂行する。 4. 実習最終日に実習内容を発表する。 5. 実習内容を担当した事例を中心にレポートにまとめて提出する。 <p>主な実習施設：筑波大学附属病院 成人系病棟等</p>					
単位取得要件	実習への3分2以上の出席、発表会での発表、レポートの提出				
使用教科書・教材	各自で検索すること				
成績評価	実習計画書、実習内容・成果、発表内容、レポートにて総合的に評価する				
備考：					
文献学習を十分に行い、根拠にもとづいた看護過程を実践できるようにする					

科目番号	科目名			英語名	
HC37 133 Q13 7133	総合実習・精神看護学分野			Field of Psychiatric Nursing and Mental Health	
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	2単位	2学期	集中		
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
<p>森 千鶴（502室・8062・随時可） 岡田 佳詠（512室・7866・随時可） 三木 明子（501室・7988・随時可）</p>					
学習目標					
<p>1年から4年までに習得した看護実践能力の評価をふまえ、保健・医療・福祉の包括的な視点から看護の総合的な実践能力を高めるため、学生自らが実習を企画し、実践し評価できることを目的とする。あわせて将来の自らの看護の発展と方向性を探究することを目的とする。</p>					
授業内容（日程・授業概要・担当教員）					
9月6日～9月17日					
<p>A. 医療観察法病棟に入院している精神障害者及び精神科病院を退院した精神障害者の生活を支える援助を学ぶ。また医療観察法病棟及びデイケアでの精神科医療チームの実際を知り、医療チームにおける看護の役割を学び、専門職者間の連携について理解を深める（森 千鶴）</p> <p>B. 精神障害者の地域生活を支える援助について学ぶ。主に精神科病院におけるデイケアや外来部門、地域の作業所、社会復帰施設等に通う、あるいは精神科訪問看護を利用する精神障害者へのケアを実施し評価を行う（岡田佳詠）</p> <p>C. 入院治療を必要としている患者（主に気分障害・適応障害）を担当し、接近技法を用いながら、症状アセスメント、セルフケアの査定を行い、メンタルヘルスの回復を支える援助技法を学ぶ。対象の生活歴を把握し、発症の経過や入院に至った経緯を理解し、再発予防や社会復帰の視点を持ちながら、看護計画・目標を立て、実施・評価を行う。また、複数の企業のメンタルヘルスサービス部門を見学し、労働の場におけるメンタルヘルス不全者の把握やうつ対策、メンタルヘルスを向上させるための社会資源、支援体制について理解を深める。メンタル不全者の事例を通して、ストレスや心理社会的要因を理解し、病気を抱えながら仕事を行う対象にとって必要な援助を学ぶ（三木明子）</p>					
単位取得要件	4年次1学期までにすべての実習科目を履修していること				
使用教科書・教材	必要に応じて紹介するが、自らが文献・教材などを収集することを基本とする				
成績評価	実習記録、実習成果（レポート）等から目標の達成状況を総合的に評価する				
備考：					
精神看護学への興味や関心をもち、学生自らが課題を明確にして実習に臨むことを期待している					

科目番号	科目名		英語名		
HC37 143 Q13 7143	総合実習・高齢者看護学分野		Field of gerontological nursing		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	2単位	2学期	集中		演習時は、実習室等を使用する
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
松田ひとみ（総合研究棟 D721、3442、随時） 橋爪祐美（4B 棟 411、3986、随時）					
学習目標					
<p>卒業期における総合実習として看護実践応能力における評価を踏まえ、高齢者を対象とした看護過程を主体的に計画化し実践する。これを通して、専門的看護学実践の基礎を学ぶ学修者として「できる」段階への到達を確認することができる。また、ヒューマン・ケアリングの実現を目指す高齢者看護学においては、ART 性、科学性と専門職性の側面からの能力を評価する。</p> <p>高齢者への看護の実践は、人権を尊重した看護過程として共同意思決定を行うことと、健康障害の傾向を踏まえて、生活リズムの調整を主眼とした生活行動分析を行うことを特徴とする。</p>					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
<p><実習方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践能力評価から学生は自己の課題を明らかにした後に、教員と面談を行い、実習の全体計画をたてる。（教員及び実習指導者の合意や助言のもとに実効性の高い実習計画をたて提出する） 2. 実習の全体計画の内容は、各自の課題に応じて、カンファレンスの設け方、看護計画をたてる時間及び指導・助言を受ける時間などの項目をいれて、学生独自の実習運営計画とする 3. 健康上の問題をもつ高齢者を対象とした臨地実習を行う。ただし、入院だけではなく、外来通院およびディケア施設を利用している高齢者をも対象とする。 4. 生活支援の観点から、24 時間体制のケアのリレーションとチーム医療を視野に入れた包括的な看護の実践を計画する（例：学生の実習計画に応じて、夜間実習の選択肢がある） <p><実習施設></p> <p>病院療養棟、ディケア施設、グループホームなど</p>					
単位取得要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の実習計画の実現度に応じて評価する 2. レポートおよび実習記録の提出を必要とする 3. 遅刻・欠席は認めない（原則） 				
使用教科書・教材					
成績評価	出席、実習行動、看護過程シート、レポートおよびカンファレンスの参加状態により評価				
備考：					

科目番号 HC37 153 Q13 7153	科目名 総合実習・母性看護学分野		英語名 Field of Maternity Nursing		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	2単位	2学期	集中		
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー） 江守陽子（共同利用棟 B110・内線 3479） 村井 文江（4B 棟 507・fumie_m@md.tsukuba.ac.jp・内線 3439） 小泉 仁子（4B 棟 503・内線 8447） 川野 亜津子（4B 棟 209・内線 8431）					
学習目標 1 年から 4 年までに修得した看護実践能力の評価を踏まえ、保健・医療・福祉の包括的な視点から看護の総合的な実践能力を高めるため、学生自らが実習を企画し実施し評価できることを目的とする。あわせて将来の自らの看護の発展と方向性を探求することを目的とする。					
授業内容（概要、回数、担当教員等） 上記学習目標（実習目標）を踏まえ、母性看護学領域では以下のことに重点をおき実習を行う。 1、包括的視野をもって、母性看護における看護展開をする。 2、母性看護領域における関心について実習を通して深める。 実習方法： 学生は、教員と相談しつつ、各自の関心に基づき実習のテーマおよび目標を設定し、それに沿った実習内容を計画し実施する。					
単位取得要件	授業への出席と成績評価における合格水準以上の成績				
使用教科書・教材	教材：既習の授業で紹介したもの、そのほか必要があれば別途紹介する。				
成績評価	実習態度、レポート・記録物から総合的に評価する。				
備考： 総合実習以外の必修科目となっている看護学実習科目単位所得者に限る。 学類最後の実習になります。自分なりの看護が展開できること、そして看護観を深めていけることを期待しています。					

科目番号	科目名		英語名		
HC37 163 Q13 7163	総合実習・小児看護学分野		Field of child care nursing		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	2単位	2学期	集中		
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
古谷佳由理（4 B棟 511 室 電話 029-853-3985 fkayuri@md.tsukuba.ac.jp 随時可能ですが、事前にアポイントを取ってください）					
小池 秀子（4 B棟 209 室 電話 029-853-3428 hkoike@md.tsukuba.ac.jp 随時）					
涌水 理恵（4 B棟 210 室 電話 029-853-3427 riewaki@md.tsukuba.ac.jp 随時）					
学習目標					
1 年から 4 年までに修得した看護実践能力の評価を踏まえ、保健・医療・福祉の包括的な視点から看護の総合的な実践能力を高めるため、学生自らが実習を企画し実施し評価できることを目的とする。あわせて将来の自らの看護の発展と方向性を探求する					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
<p>実習目標</p> <p>チームアプローチを含めた小児看護の総合的な能力を高める</p> <p>実習目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療チームの中の看護の位置づけを理解する 2. 看護チームの一員としての看護師の役割を理解する 3. 小児病棟における小児と家族に対する看護のあり方について学ぶ 4. 一人の患児を中心に看護を展開する。状況に応じて複数の患児に対する看護を計画し実践する能力を養う 5. 患児の 24 時間の生活について知り、看護のあり方について学ぶ 6. 受け持ち患児に関連した外来を見学し、外来通院中の子どもの生活について学ぶ 					
単位取得要件	原則として遅刻、欠席は認めない。カンファレンスへの参加、課題の提出				
使用教科書・教材	指定なし				
成績評価	実習態度、各自の実習課題の達成度などより総合的に評価				
備考：					
一度小児看護学実習を経験した後、さらに小児看護を深めたいと希望する方向けのプログラムを用意しています。					
領域別実習で実習を行った病棟によっては、総合実習を行う病棟に制限があります。					

科目番号	科目名		英語名		
HC37 173 Q13 7173	総合実習・応用看護学分野		Practice on Applied Nursing		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	2単位	2学期	集中		
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
安梅勅江 研究室 4B409 連絡先 3436 オフィスアワー：メールで事前にアポイントを取ること anmet@md.tsukuba.ac.jp					
柏木聖代 研究室 総合研究棟 D 719 連絡先 3405 オフィスアワー：メールで事前にアポイントを取ること mkashi@md.tsukuba.ac.jp					
学習目標					
1年から4年までに修得した看護実践能力の評価を踏まえ、保健・医療・福祉の包括的な視点から看護の総合的な実践能力を高めるため、学生自らが実習を企画し実施し評価できることを目的とする。あわせて将来の自らの看護の発展と方向性を探求することを目的とする。					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
以下のコースに分かれる。					
A. コミュニティ・エンパワメント、生涯発達ケア、国際保健福祉のいずれかに関する基礎的な知識と技術を学ぶ。特に実践研究に結びつく情報収集の方法と活用について、具体的な課題を通して習得する。授業回数は、大学院進学の有無、研究セミナーとの関連性、選択テーマに応じて決定する（安梅）					
B. 在宅療養者への看護の実践を通じて、地域における在宅看護について総合的に学ぶ。また、保健・医療・福祉の総合的な視点から訪問看護の現状および課題について考察することも実習の目的とする。実習課題、実習計画等に合わせて実習先を選定・依頼をするため、担当教員とやりとりしながらの事前準備が必要となる（柏木）					
単位取得要件	授業参加とレポート提出				
使用教科書・教材	コミュニティ・エンパワメントの技法（安梅）				
成績評価	授業参加態度と課題評価				
備考：					

科目番号	科目名		英語名		
HC38 012 Q13 8012	研究方法セミナー		Introduction to Research Seminar		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	1単位	2～3学期	集中		
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
看護系全教員					
学習目標					
<p>各人がこれまでに学んだ理論や臨床実習経験を基盤にして研究課題を見だし、既存研究との比較を通じて仮説を明確化するとともに、研究設計、研究方法、研究発表技術の取得に向けた過程を経て論文をまとめていく能力を養う。</p>					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
<p>看護学専攻に所属する全教員が学生を担当し、上記学習目標を達成するためのセミナーを行う。</p> <p>各担当教官の設定テーマに沿って、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究仮説の明確化と研究設計 ② 既存研究の文献検討 ③ 科学的な根拠を得る研究方法 ④ 研究発表技術 <p>について学習する。</p>					
単位取得要件	各教員の指導による。				
使用教科書・教材	各教員により異なるので、指導担当教官に相談する。				
成績評価					
備考：担当教員の決定に際しては、十分に希望する教員に相談して決定すること。					

科目番号	科目名		英語名		
HC32 102 Q13 2102	外来看護・ プライマリーヘルスケア		Nursing for Outpatients・Primary Health Care		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	1単位	3学期	木曜日	3・4時限	4B204
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
柴山大賀（看・医 4B105 3433 taiga@md.tsukuba.ac.jp ） ****（ ） オフィスアワー：来室は随時、受け付けるが事前に連絡すること。					
学習目標					
プライマリーヘルスケアの概念を理解し、主にそれを担う医療活動の役割を学習する。具体的には地域医療活動として位置づけられる診療所や病院外来部門の現状、そこに受診する患者のニーズ、そして地域連携のありかたを分析し、そのような臨床現場における看護の特徴および役割について演習形式で学習する。					
	日程	担当教員	授業概要		
1	12/1	柴山大賀	プライマリーヘルスケアの実践の場としての外来の現状と看護の役割		
2	12/8	（ ）	地域医療における診療所（開業医）の役割		
3	12/15	柴山大賀	病院における外来と病棟の看護連携		
4	12/22	柴山大賀	外来での糖尿病看護		
5	1/19	柴山大賀	外来でのがん看護：化学療法、緩和ケアの実際		
6	1/26	柴山大賀	小児救急外来でのトリアージ		
7	2/2	（ ）	外来での日帰り手術や検査に必要な看護		
8	2/9	柴山大賀	看護専門外来と診療報酬		
9	2/16	柴山大賀	海外の医療体制と外来看護		
10	2/23	柴山大賀・ （ ）	まとめ：外来看護に求められる役割と専門性とは		
単位取得要件		レポートの期限内提出およびグループワークに積極的に参加すること。			
使用教科書・教材		別途、資料を配布する。			
成績評価		出席状況・グループワーク参加状況・レポートの内容で評価する。			
備考：					

科目番号 HC32 131 Q13 2131	科目名 医療の進歩と看護		英語名 Medical progress and nursing		
標準履修年次 4年	単位数 1単位	開設学期 3学期	曜日 月曜日	時限 3時限	使用教室 4C 講義室 B
担当教員 (研究室・連絡先・オフィスアワー) 川口孝泰 (4B 棟 104・8193(kawat@md.tsukuba.ac.jp)) 佐伯由香 (4B 棟 508・3438(yukaS@md.tsukuba.ac.jp)) 柴山大賀 (4B 棟 412・3433(taiga@sakura.cc.tsukuba.ac.jp))					
学習目標 医療技術の進歩とそれに伴う看護技術の変化について学ぶ。さらに医療技術の進歩と患者の QOL の向上、治療環境の変化にともなう倫理的諸問題等に言及し、高度にそして複雑に変化する医療現場における看護の役割と責任について理解を深める。					
回数	日程	担当教員	授業概要		
1	12/5	川口	看護情報とテレナーシング		
2	12/12	川口	看護情報とテレナーシング		
3	12/19	川口	看護情報とテレナーシング		
4	1/18 (水)	川口	自己学習 (学習課題の提示)		
5	1/23	柴山	糖尿病医療最前線：治療編		
6	1/30	柴山	糖尿病医療最前線：ケアチーム編		
7	2/6	柴山	糖尿病医療最前線：患者編		
8	2/13	佐伯	最先端医療と看護		
9	2/20	佐伯	最先端医療と看護		
10	2/27	佐伯	最先端医療と看護		
単位取得要件		なし			
使用教科書・教材		配付資料により適宜準備する			
成績評価		出席とレポート			
備考： * 講義内容については変更の可能性があるため、初日に修正・指示を行う。					

科目番号 HC38 022 Q13 8022	科目名 ケア・コロキウム (チームワーク演習)		英語名 Care colloquium		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	1単位	3学期	12/1(木)～ 12/7(水)	1～6時限	
担当教員(研究室・連絡先・オフィスアワー) 看護・医療科学類教員(看護:安梅勅江、医療科学:浦山修) 医学類教員(前野貴美、前野哲博、高屋敷明由美)					
学習目標 疾病や障害がある人とその家族に対する質の高いケアのあり方について、各専門領域の学類チームメンバーで検討する。グループワークを通して専門職種の理解を深め、チームワークの意義と当事者の力を引き出すエンパワメントの方法および効果を体験する。					
授業内容(概要、回数、担当教員等)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生(看護学類、医療科学類、医学類の学生は必修、人間学群の学生は自由参加)は事例を用いた検討を行う。看護学類、医療科学類は4年次生、医学類は3年次生、人間学群は3～4年次生が参加する。 2. 12/1(木)～12/7(水)の1～6時限をテュートリアル学習方法で、オリエンテーション・コアタイム・グループワーク・自己学習・全体討論で構成する。 グループで専門領域事例の中から1症例を検討する。 オリエンテーション:目的、スケジュール、方法、症例等の説明。 コアタイム、グループワーク、自己学習等は専門領域によりスケジュールが異なる。 全体討論は、各コーディネータの総括を含め、12/6(火)の1～6時限に行う。 3. 教員はコーディネータとチューターの役割をとる。 					
単位取得要件	演習です。欠席は認めません。				
使用教科書・教材	資料を配布します。				
成績評価	個人レポートと症例発表				
備考: 「ケア・コロキウム」のキーワードは、1. ケア、2. 多職種連携、3. エンパワメント、です。これらを踏まえた多角的な生活者の視点を学習します。					

科目番号 HC38 101 Q13 8101	科目名 看護管理方法論		英語名 Nursing management methods		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	1単位	3学期	集中		4C 講義室 B
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
安梅勅江（研究室・看護・医療学科棟 409 号室 ・電話 3436・随時（メールにて要予約））					
学習目標					
看護管理方法について、さまざまな方法の特徴と課題を理解するとともに、具体的な技術の取得を通じて、実践的なケアに結びつける展開法を学ぶ。					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理方法論の特徴 2. 看護管理方法論の課題 3. 看護管理のための技術：基礎演習 1 4. 看護管理のための技術：基礎演習 2 5. 看護管理のための技術：応用演習 1 6. 看護管理のための技術：応用演習 2 7. 看護管理のための技術：展開演習 1 8. 看護管理のための技術：展開演習 2 9. 看護管理方法論の実践活用 10. 看護管理方法論の今後の展開 					
単位取得要件	授業の出席率・レポートの提出				
使用教科書・教材	ヒューマンサービスにおけるグループインタビュー法（医歯薬出版）				
成績評価	演習への参加状況・レポートの提出などを総合的に判定する。				
備考：積極的にディスカッションに参加する。					

科目番号 HC38 111 Q13 8111	科目名 看護政策論		英語名 Nursing policy		
標準履修年次	単位数	開設学期	曜日	時限	使用教室
4年	1単位	3学期	水曜日	集中	4C 講義室 B
担当教員（研究室・連絡先・オフィスアワー）					
安梅勅江（研究室・看護・医療学科棟 409 号室・電話 3436・随時（メールにて要予約））					
学習目標					
国際的な視点から、変革者としての看護職の役割を理解するとともに、政策科学の看護への応用について学ぶ。					
授業内容（概要、回数、担当教員等）					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 政策におけるコミュニティ・エンパワメントの概念 2. コミュニティ・エンパワメントの特徴と政策応用 3. 政策の策定プロセス 4. 政策策定の現状と問題点 5. 国際政策の現状と問題点 6. コミュニティ・エンパワメントの政策技術 7. 政策技術演習 1 8. 政策技術演習 2 9. 政策技術演習 3 10. 政策・行政の課題と展望 					
単位取得要件	ディスカッション参加状況・レポートの提出				
使用教科書・教材	コミュニティ・エンパワメントの技法（医歯薬出版）				
成績評価	ディスカッション参加状況・レポートの提出などを総合的に判定する。				
備考：自発的に考え、積極的にディスカッションに参加する。					